

# 聴覚障害のある社会人を対象としたリカレント教育プログラムの実践報告

## －時代の潮流に合わせたDX、D&Iスキルの育成－

○後藤 由紀子（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 助教）  
河野 純大（筑波技術大学 産業技術学部）

### 1 筑波技術大学が行うリカレント教育

#### (1) 大学が担う社会的使命

筑波技術大学（以下「本学」という。）は日本で唯一の、聴覚・視覚障害者のための高等教育機関である。幅広い教養と高い専門性を備えた社会に貢献できる先駆的な人材を育成することを教育的使命として掲げ、専門職業人の養成と障害者の社会的自立を図ることを目的としている。1987年に3年制短期大学として開学した当初より、在学生の就職支援のみならず卒業後のフォローアップにも力を入れており、職場適応や就労継続のための個別相談に加えて、出張講座やオーダーメイドの学び直しプログラム等の形で障害のある社会人のスキルアップやキャリアアップの支援も行ってきた。

本報告では、聴覚障害のある社会人向けに本学が行っているリカレント教育の取り組みについて紹介する。

#### (2) リカレント教育に対する社会的ニーズの高まり

「リカレント（recurrent）」には「繰り返す」「循環する」という意味があり、学校教育から離れて社会に出た後も必要なタイミングで再び教育を受け、仕事と教育を繰り返すことを「リカレント教育」という<sup>1)</sup>。終身雇用中心から転職や起業、副業などの多様な働き方が一般的になってきている近年、リカレント教育の需要が高まっている。

#### (3) 文部科学省委託によるリカレント教育事業の取り組み

本学では、2021年度からの3年間、文部科学省が大学等に向けて展開しているリカレント教育事業の採択を受けて聴覚障害者向けプログラムを実施してきた。初年度に採択されたのは失業中・求職中の者を主な対象とした「聴覚・視覚障害者のための共生社会実現に向けた超職業実践力育成事業－聴覚障害者のための企業等就職志向プログラム－」、2022年度に実施したのは在職者のリススキルを主な目標とした「聴覚障害者のための共生社会実現力育成プログラム【DXリススキル】」であった。コロナ禍における失業者の支援、企業等におけるDX（デジタル・トランスフォーメーション）推進の機運の高まりを受けたリススキル支援など、年度毎に社会的要請を踏まえた主題を設定し、カリキュラムを作成、実施している。

2023年度は、昨年度から引き続いてのDXリススキルに加えて、D&I（ダイバーシティ・アンド・インクルージョン）の推進において必要とされる知識スキルの付与を目的として「聴覚障害者のためのDX/D&I促進人材育成プログラム」を開講する。なお、いずれのプログラムも本学内

で履修証明プログラムとして位置付けられており、本学が指定する60時間以上の講義を履修した受講者は「履修証明書」を受け取ることができる。

### 2 聴覚障害者のためのDX/D&I促進人材育成プログラム

以下は、本学が本年度開講する「聴覚障害者のためのDX/D&I促進人材育成プログラム」の紹介である。2023年9月からの開講を予定しているが、開講後も随時受講者を募集する。

#### (1) プログラムの目的

聴覚障害者が充実した学びを得るには手話通訳や音声のテキスト化等による情報保障の整備された学習環境が欠かせないが、企業内や専門学校等において提供される研修に十分な情報保障が整えられているとは言い難い。そのため、当プログラムでは、本学が有する聴覚障害者に対する教育・就労支援のノウハウを最大限に活用し、障害に左右されず積極的に学習テーマを選択できる機会を提供する。カリキュラムとしては「D&I推進スキルアップコース」「DXスキルアップコース」の2種類の履修モデルを用意し、近年産業界において関心の高まっているDXやD&Iの領域で活躍できる人材の育成を目指す。そのアウトカムとして、障害の有無によらない全ての人々にとっての働くことの価値を高め、共生社会の実現に寄与することを目的としている。

#### (2) 主な対象者等

聴覚障害のある在職者で、社内でD&IやDXを推進する立場にある者、またはD&IやDXに関する知識・スキルの習得を望む者を主な対象とする（目的に応じて、在職中ではない者を受け入れることがある）。年代は問わない。

受講定員は20名だが、少数の科目を部分的に受講する場合は定員を超えて受け入れることが可能である。

#### ア 受講に関する問い合わせ先

筑波技術大学 成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業 問い合わせ窓口

E-mail : r3recpro@nc.a.tsukuba-tech.ac.jp

#### イ 受講申込先

申込用URL : <https://forms.office.com/r/85m2grQCLy>

※2023年12月中旬までの募集を予定  
(2023年8月現在)。



プログラム  
申込用QRコード

### (3) プログラムの特色

#### ア 開講形式

全国各地からの受講を可能とするため全ての講義をオンライン配信にて行うが、リアルタイム配信による受講を奨励し、授業の双方向性を担保する。また、在職者が受講しやすいための工夫として、講義のリアルタイム配信は原則として平日夜間か休日に行うこととし、やむを得ず欠席した場合も録画配信の視聴と事後課題の提出をもって履修を完了できることとする。

聴覚障害者向けの情報保障としては、全ての講義に手話通訳（講師自身が手話を表出する場合は無し）と遠隔からのパソコン入力による文字通訳を配置する。

#### イ カリキュラム

受講目的によって「D&I推進スキルアップコース」「DXスキルアップコース」の2種類の学習内容から選択できる他、聴覚障害当事者や実務家教員の協力を得て、受講者のキャリア形成や実際の業務における実践的スキルが習得できるよう工夫した。具体的なカリキュラム内容は、表1のとおりである。

表1 開講授業科目一覧（2023年8月時点）

科目群	D&I 推進 コース	DX コース	科目名	聴覚障害 当事者 教員	授業 時数
D &I 推進 専門 科目	必修	選択	セルフアドボカシー		1.5h
	必修	選択	職場における交渉演習		3h
	必修	選択	キャリアマネジメント	○	3h
	必修	選択	健聴者と協働するマネジメント	○	6h
	必修	選択	聴覚障害者の言語と文化	○	6h
	22.5h	必修	選択	音声認識システム活用演習	
D X 専門 科目	選択	必修	DXリテラシー		3h
	選択	必修	VBA応用演習		6h
	選択	必修	RPA応用演習		6h
	選択	必修	データサイエンス入門		3h
	21h	選択	必修	デザイン思考演習	
ビ ジ ネ ス ス キ ル 科 目	必修	必修	キャリアプランニング		1.5h
	必修	必修	メンタルヘルスマネジメント	○	3h
	必修	必修	グループワーク演習		6h
	必修	必修	アサーティブコミュニケーション演習		4.5h
	必修	必修	クリティカルシンキング		3h
	21h	必修	必修	コーチング	
自 由 選 択 科 目	選択	選択	VBA基礎演習		3h
	選択	選択	RPA基礎演習		3h
	選択	選択	TOEIC試験対策		12h
	選択	選択	英文ビジネスメール		6h
	選択	選択	応用情報技術者試験対策		6h
	選択	選択	ビジネスマネジメント		9h

「D&I推進スキルアップコース」は、ダイバーシティやインクルージョンの考え方や必要性を理解し、企業等においてD&Iに関する理解を促進する啓発セミナーの開催を提案し、事業所内風土での共生社会実現や共生環境の醸成に寄与することができるスキルの習得を目的としている。自身の障害や必要な情報保障等について説明できるようになるための「セルフアドボカシー」や、多様なコミュニケーション手段・価値観等を有する他者との協働について学ぶための「健聴者と協働するマネジメント」等の科目が必修となっている。

「DXスキルアップコース」は、デザイン思考ファシリテーター2級相当、Microsoft Power Platform 基礎レベル相当などのスキルの習得を目的としている。企業等においてDXを用いた業務改善の提案ができるスキルが身に付けられるよう、「データサイエンス入門」「RPA応用演習」等の実践的な講義を必修科目として取り入れている。

#### ウ その他

キャリアコンサルタント資格を有する本学教員が必要に応じてキャリアカウンセリングを行う他、適宜ハローワークや就労支援機関、受講者の勤務先等と連携しながらプログラム終了後も受講者のキャリア支援を行っていく。

#### (4) 期待する効果

2021年、2022年に実施したプログラムにおいては、講師が直接教授する内容だけでなく、受講者間の経験の共有から生まれる新たな視点への気づき等の学習効果が見られた。当プログラムにおいても双方向型の授業によって同様の効果を期待すると共に、2種類のコース選択を可能とした新たなカリキュラム編成がもたらす学習への主体性やキャリア形成における意識の変化を注視したい。

長期的には、当プログラムを通してスキルを身に付けた受講者が企業等において管理職などマネジメントを担う立場へキャリアアップしていくことを期待する。

#### 【参考文献】

- 1) 政府広報オンライン「『学び』に遅すぎはない!社会人の学び直し『リカレント教育』」：<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/202108/1.html>（2023年8月4日閲覧）

#### 【連絡先】

後藤 由紀子  
筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター  
E-mail : ygoto@a.tsukuba-tech.ac.jp